

| | | |
|---|--|---|
| | <p>(2) 国際教育委員会活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭に JICA の研修員を招待し、交流を持つ。 ・海外派遣生の壮行会、報告会、受け入れ生徒との交流会などを企画運営させる。 <p>(3) 海外派遣など国際交流活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアのダーウィン高校との交流事業の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ア 相手国に関する研究テーマを設定し、調査研究をする。 イ コミュニケーション能力を高めるために、研修を充実させる。 ウ 相手校と E-mail で交流を深める。 エ 受け入れの際、ダーウィン校生と一般生徒との交流の機会を作る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・異文化に対する知識、態度をアンケート調査によって評価する。 ・生徒や保護者を対象に、研究成果を発表させる。また、報告書を作成させることによって、総合的に評価する。 |
| <p>⑦ 高大連携を利用した、生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した指導法の研究。 (1年次・2, 3年次も継続を検討)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・1年次は流通経済大学と連携し、同大の桑野佳明教授による1, 2年生対象の「英語コミュニケーション演習」の授業を年間15回実施する。内容は3期に分け、レシテーション、スピーチの作成、スピーチの発表などをさせる。 ・大学等との連携により、英語科教員対象の英語指導法セミナー(コミュニケーションアプローチ等)を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの段階においてコンテスト形式でジャッジをし、その内容、表現力、態度などを評価する。 ・コミュニケーション能力テスト等によって伸長度を確認する。 ・英語科教員対象の授業改善に関するアンケートを実施する。 ・セミナーで学んだことを活かした公開授業を実施する。 |
| <p>⑧ パソコン等の情報機器を活発に活用し、楽しく英語が学べる環境づくりをする研究。 (1～3年次)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各生徒が興味を持ったテーマについて、インターネットなどを利用し調べ、その内容について発表させる。 ・放課後に教室のほかにコンピュータ教室も開放しインターネットの利用ができる環境をつくる。 ・各普通教室に置かれたパソコンから、新聞や放送メディアの閲覧が容易になるように整理する。 ・生徒各自の英語力向上のために Global English 等の希望を募り、学校からも補助を行い自己学習の手助けをする。 ・パソコン教室に英語のソフトを1クラス分用意し、個人にあった進捗で英語力の向上を目指せるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に情報機器の活用に関するアンケートを実施する。 ・英語検定などの受験者数・成績の推移を検証する。 |